

令和 2 年度厚生労働省委託
「EBPM 推進に係る調査研究等一式」事業

第 1 回 厚生労働省の E B P M 推進に係る有識者検証会

議事次第

日 時 令和 2 年 9 月 14 日（月）14:00～16:00

場 所 （WEB 会議形式にて開催）

- 議 事
- 1 開会
 - ・はじめに
 - ・厚生労働省ごあいさつ
 - ・委員紹介
 - ・座長等の選定
 - 2 厚生労働省における E B P M の取組状況
 - 3 ロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等の実施状況
 - 4 重点フォローアップ事業の選定基準及び対象事業の検証
 - 5 効果検証対象事業の選定基準及び効果検証方法
 - 6 E B P M の取組に関する全体スキーム
 - 7 その他

配布資料

- 資料 1 厚生労働省における E B P M の取組状況について
 資料 2 ロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等の実施状況について
 資料 3 重点フォローアップ事業の選定基準及び対象事業について
 資料 4 効果検証対象事業の選定基準及び効果検証方法について

- 参考資料 参考 1 厚生労働省の E B P M 推進に係る有識者検証会開催要綱
 参考 2 ロジックモデル点検結果コメントシート

厚生労働省におけるEBPMの取組状況について

厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会
(令和2年9月14日)

厚生労働省政策統括官付政策立案・評価担当参事官室

厚生労働省における令和元年度EBPM推進の取組

1 EBPMの実践

- 令和元年度におけるEBPMの取組について(令和元年6月内閣官房行政改革推進本部事務局)等を踏まえ、令和元年6月に、各局においてEBPMの意義や効用を浸透・定着させる目的で、以下の観点から各局1施策(17施策)をEBPM対象施策に選定し、EBPMの実践を開始

令和元年度EBPM選定の観点	
観点	実践依頼における対象施策の例示等
① 予算関連事業	○ モデル事業等であって、その成果を踏まえて更なる施策の展開を想定している施策
	○ アウトカムが明確であり、事務事業との関係が客観的・定量的に評価が可能な施策
	○ 一部の地域・団体等での先進的又は独自の取組
	○ 既に客観的な証拠に基づき客観的な効果が裏付けられている事業
② 政策制度(法令等)	○ 目標としている政策の効果(負も含む)が客観的・定量的に検証可能
	○ 一部の地域・団体等での先進的又は独自の取組
	○ 既に客観的な証拠に基づき客観的な効果が裏付けられている事業
その他	○ 既に客観的な証拠に基づき客観的な効果が裏付けられている事業
	○ 一部の地域・団体等での先進的又は独自の取組
	○ 上記①及び②の他、各局の判断によりEBPMの実践対象を希望する施策



令和元年度EBPM実践の結果

○実践に関する事実の把握・分析

EBPMの実践について、政策立案総括審議官が実施状況を分析したところ、ロジックモデルにおいて因果関係が明確でない、施策の効果検証が十分ではないことが明らかになった。

○具体的取組

上記分析を踏まえ、
・厚生労働省EBPM推進チームにおいて、共通的な留意事項を周知
・個別施策に係る指摘事項については、政策立案総括審議官から、EBPM実践担当課室長に対面形式で改善点を指摘
・定期的なフォローアップを行うとともに、EBPMの人材育成に取り組む。

2 行政事業レビュー(公開プロセス)

- 令和元年6月の行政事業レビューの公開プロセスにおいて、以下の3事業についてロジックモデルを活用した審議を実施
→ テレワーク普及推進等対策
保育環境改善等事業
健康的な生活習慣づくり重点化事業

3 予算プロセスでの活用

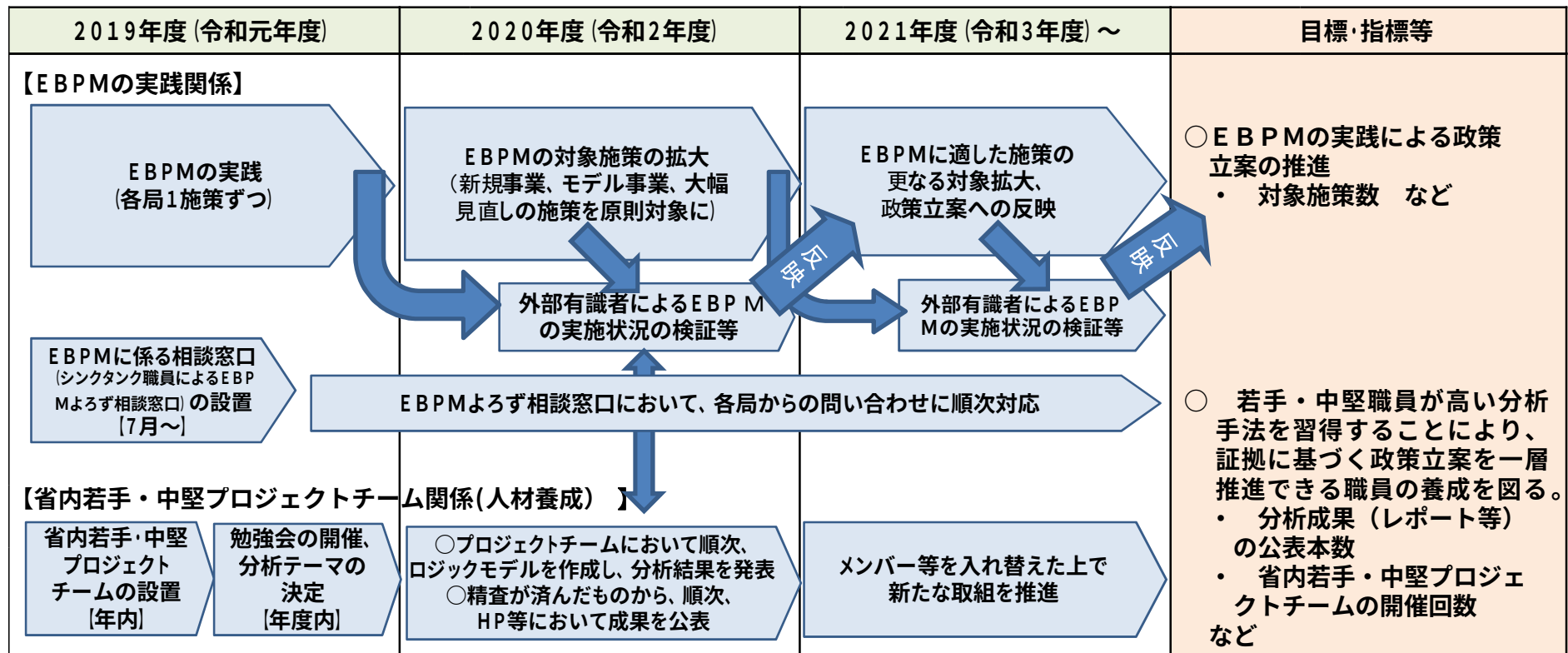
- 財務省主計局への説明において、以下の4事業についてロジックモデルを活用
→ ポジティブ・アクション周知啓発事業のうち総合的なハラスメント防止対策
戦傷病者福祉事業
昭和館運営事業
厚生労働省統計研修事業

5. EBPMの実践を通じた統計の利活用の促進 ～「第3章1.(2)EBPMの推進(EBPMの実践を通じた統計の利活用の促進)」等～

(1) 取組内容

- 現状や政策課題を迅速かつ的確に把握し、有効な対応策を選択し、その効果を検証するため、厚生労働省を挙げて、証拠に基づく政策立案(EBPM:Evidence Based Policy Making)を実践する。
- こうした取組と並行し、データの利活用の促進並びに若手・中堅職員の分析手法の習得を主たる目的として、省内有志による省内若手・中堅プロジェクトチームを設置し、各局担当者による分析等を行った上で、その結果を、白書や審議会資料等に活用するほか、HP等でレポートを公表する。

(2) スケジュール



注:令和元年12月27日に、若手・中堅プロジェクトチームを設置

令和2年度以降のEBPMの実践について（厚生労働省の取組方針）

1. 令和元年度までの取組状況と課題

《取組状況》

- 統計改革推進会議最終取りまとめ（平成29年5月19日統計改革推進会議決定）等に基づき、EBPMの浸透・定着に向けた「実例創出」を目指した取組として各省庁で実施。
- 厚生労働省では、各局1施策についてロジックモデルを作成^{※1}。ロジックモデル作成後は、各局に対して定期的なフォローアップを実施。
※1 平成30年度:15事業、令和元年度:17事業

《課題》

- 全省庁的に、事業の「選定基準」が不明瞭であり、事業見直しに当たっての「プロセス」の明確性及び透明性が欠如。

2. 令和2年度以降の取組方針

《令和2年度の取組に関する行革方針》

- 自民党行政改革推進本部による「行政事業レビューチーム提言～EBPMの更なる徹底を～」（令和元年12月12日）では、行政事業レビューシート作成・評価の段階からEBPMの観点をより導入するため、レビューシートにロジックモデルを添付する等により、行政事業レビューの更なる改善に努めるべきとされた。
- これを踏まえ、行革事務局では、行政事業レビューとEBPMの連携の観点から、令和2年度においては、令和3年度新規要求事業のうち、要求額が10億円以上の事業については、原則として、ロジックモデルを作成・公表する予定。

《令和2年度以降の取組に関する厚労省方針》

- 厚生労働省統計改革ビジョン2019工程表（令和元年10月8日）において、EBPMの実践対象事業を拡充する方針が示されており、上記行革方針も踏まえ、EBPMを一層推進する観点から、対象事業を行革基準よりも幅広く設定する。具体的には、令和3年度概算要求プロセスにおいて、①新規事業、②モデル事業、③大幅な見直しを考えている既存事業のうち、一定の選定基準（※2）に該当するものについて、原則としてロジックモデルを作成、このうち一部を公表。
- 概算要求プロセスでの活用や行政事業レビューシートを補足する資料としてロジックモデルを作成するとともに、事業の事後における効果検証の精度を高める観点から、1～3事業を行政事業レビュー「公開プロセス」（令和4年度）の候補として提示。

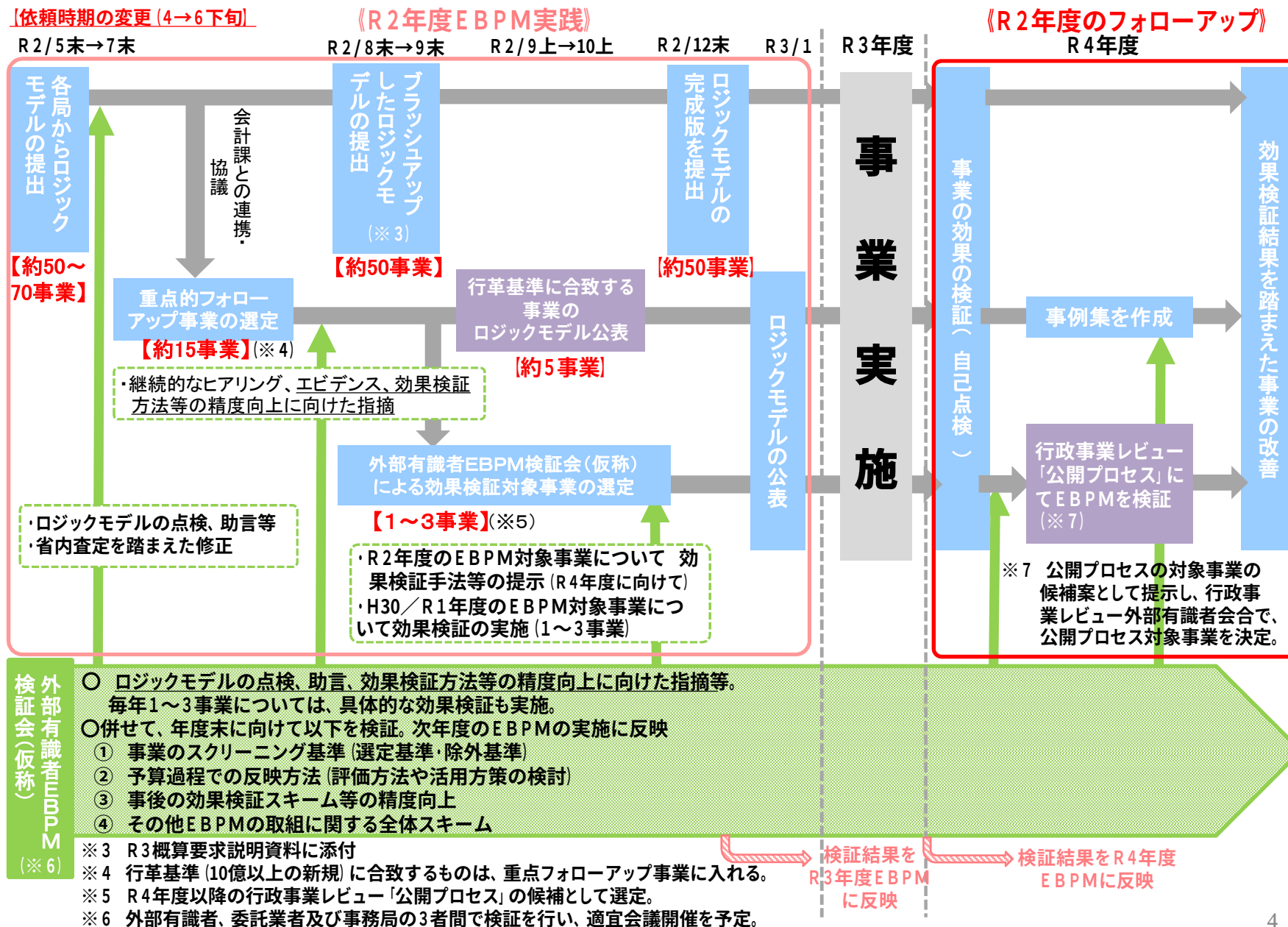
※2 一定の選定基準（今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定）

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が <u>1億円以上</u> の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業
③	大幅見直し事業	対前年度予算額50%以上増加する事業であって、かつ、増加分の差額が1億円以上の事業

ただし、以下の事業については、ロジックモデルの作成・提出を不要とする。¹⁶

- i) 現状・課題分析を目的とした事業 ii) 司法判断により国の実施義務が明らかな事業 iii) その他、特別の事情がある事業（個別協議の上、判断）³

令和2年度以降の取組サイクルと令和3年度以降に向けた見直し



EBPMの実践に係る対象事業の選定基準

厚生労働省における令和2年度の取組方針

- 令和3年度概算要求プロセスにおいて、①**新規事業**、②**モデル事業**、③**大幅な見直しを考えている既存事業**のうち、一定の選定基準に該当するものについて、原則としてロジックモデルを作成、このうち一部を公表。

選定基準(今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定)

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が 1億円以上 の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業
③	大幅見直し事業	対前年度予算額50%以上増加する事業であって、かつ、増加分の差額が1億円以上の事業

※ 新型コロナウイルス感染症関連事業は原則対象外とする。また、特殊事情によりEBPMの実践が困難な場合には、個別協議の上、判断する。

除外基準(選定基準①～③に該当する事業でもロジックモデルの作成・提出を不要とする。)

	事業
i	事業の内容が、現状分析・課題分析を目的とした事業
ii	司法判断により国が実施義務を負うことが明らかな事業
iii	現在の事業において採用されている手法に代わりうる有効な手段を検討することが困難な事業 (外交的判断で意思決定されており、原局レベルで代替案を検討することができない事業等を想定。個別協議の上、判断)

(1) 令和2年度のEBPMの取組について (令和2年4月17日内閣官房行政改革推進本部事務局)

- 行政事業レビューとEBPMの一体的取組の推進
新規予算要求事業(10億円以上)について、原則、ロジックモデルを作成・公表
- 予算プロセスとEBPMの一体的取組の推進
事業の性質等を踏まえ、省内予算検討・要求プロセスや財務省主計局への説明においてロジックモデルを積極的に作成・活用

(2) 自民党行政改革推進本部提言(令和2年7月2日) 統計改革・EBPMワーキンググループ

- 行政事業レビューや政策評価、予算要求説明等におけるEBPM手法の活用を強化するとともに、**規制等他の分野**にも活用を広げること。
 - **補正予算**についても、将来、同じような仕組の予算措置があり得るものは、行政事業レビューの手法も活用した効果分析を行い、緊急時対応を円滑化すること。
- ※ 内閣官房行政改革推進本部及び統計改革推進室は、本年度中に提言を具体化するロードマップを作成し、本チームに報告することを求める。

令和2年度ロジックモデル作成状況

令和2年度EBPM実践事業数

提出時期	総事業数	新規事業	モデル事業	大幅見直し事業
第一次提出（7/17）	39事業			
概算要求会計課長説明に活用（8/3～8/5）	31事業	9事業	14事業	8事業
第二次提出（9月末）※9月1日時点暫定値	23事業	5事業	12事業	6事業

令和2年度EBPM実践事業一覧

	事業名
1	全国の病院等を検索できる医療情報サイトの構築
2	災害拠点精神科病院整備事業
3	慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業
4	医薬品等輸入確認情報システム
5	高齢者医薬品安全使用推進事業
6	医療情報データベース活用推進事業
7	地域外国人材受入れ・定着モデル事業
8	予防のための子どもの死亡検証体制整備モデル事業
9	困難な問題を抱える女性支援連携強化モデル事業
10	離婚前後親支援モデル事業
11	養子縁組民間あっせん機関助成事業
12	生活困窮者就労準備支援事業費等補助金

	事業名
13	中央福祉人材センター運営事業費
14	農業分野等との連携強化モデル事業
15	精神障害者保健福祉対策（依存症）
16	精神障害者保健福祉対策（地域精神保健）
17	聴覚障害児支援中核機能モデル事業
18	障害児等のインクルーシブ推進モデル事業
19	障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業
20	地域生活支援事業等
21	国民健康保険団体連合会等補助金
22	高齢者医療制度円滑運営事業費補助金
23	人口動態調査費

資料2

厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会
**ロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等
の実施状況について**

みずほ情報総研株式会社
社会政策コンサルティング部 雇用政策チーム



1. 昨年度振り返りと今年度の点検方針

昨年度の振り返り

- ・ 昨年度、各局 1 施策を対象にEBPM実施計画(ロジックモデル)の点検を実施。
- ・ 全17施策に対し、ロジックモデル及び検証方法の確認を実施。各部局へのヒアリングも行った。その結果、次の2点について、比較的共通した課題が見受けられた。

昨年度点検の結果、各局に共通して見受けられた課題

- 1 ロジックモデルにおいては、現状・課題→インプット→アクティビティ→…→アウトカムの流れにおいて因果関係が明確でない。特に、以下の因果関係が明確でない。
 - ✓ 「現状・課題」→「アクティビティ」、「アウトプット」→「アウトカム」
 - ※政策課題解決のために当該施策の必要性や妥当性に関する説明や、当該施策の実施により期待する効果が得られるという因果関係が明確でない。
- 2 検証方法においては、以下の分析及びその準備が十分ではない。
 - ✓ 事業や施策の対象（介入群）と、それ以外（非介入群）との比較分析
 - ✓ 非介入群の設定が困難な場合、地域や事業（施策）等の実施前後の比較等による効果分析
 - ✓ こうした分析に必要な事前の設計（リサーチデザイン）

※(出典)令和元年度EBPM推進チーム会合資料より抜粋

今年度の点検方針

- ・ こうした昨年度の経験を踏まえ、今年度は主に以下2つの点を重点的に点検した。
 - 1) ロジック …ロジックモデルの各要素項目が適切に記され、要素項目間に論理的整合性があるか。
 - 2) エビデンス…エビデンスが適切に用いられ、指標や検証方法が適切に設定されているか。

1. 昨年度振り返りと今年度の点検方針 ①ロジックについて

1) ロジックについて

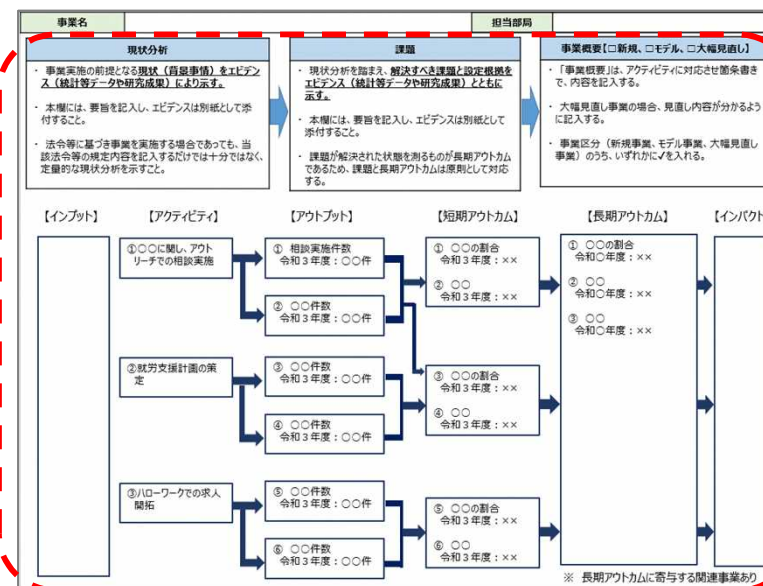
- ロジックについては、主に以下の2つの観点から点検を実施した。

- 観点1a：
ロジックモデルの各要素項目が適切に記されているか
- 観点1b：
要素項目間の流れに論理的整合性があるか

(参考)ロジックモデルの各構成要素

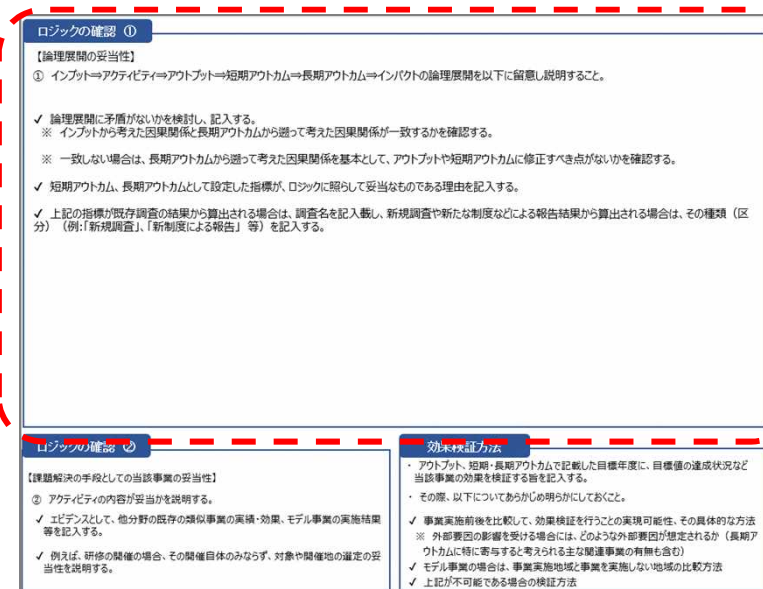
構成要素	定義
現状	課題の前提となる背景事情
課題	事業の前提となる課題（解決したい課題・社会問題）
インプット	- 資源投入 - 事業の実施に必要な予算等
アクティビティ	- 事業の実施 - 事業の活動内容
アウトプット	- 事業実績 - 事業の実績及びそれに対する目標
短期アウトカム	- 成果目標 - 当該事業の実施で期待する成果
長期アウトカム	- 成果目標 - 当該事業の実施で期待する成果に加え関連事業も含めた成果
インパクト	- 最終目標・社会的影響 - 事業の最終的な目標

(参考)「ロジックモデル」フォーマットと点検項目



観点
1a

観点
1b



1. 昨年度振り返りと今年度の点検方針 ②エビデンスについて

2) エビデンスについて

- エビデンスについては、主に以下の2つの観点から点検を実施した。

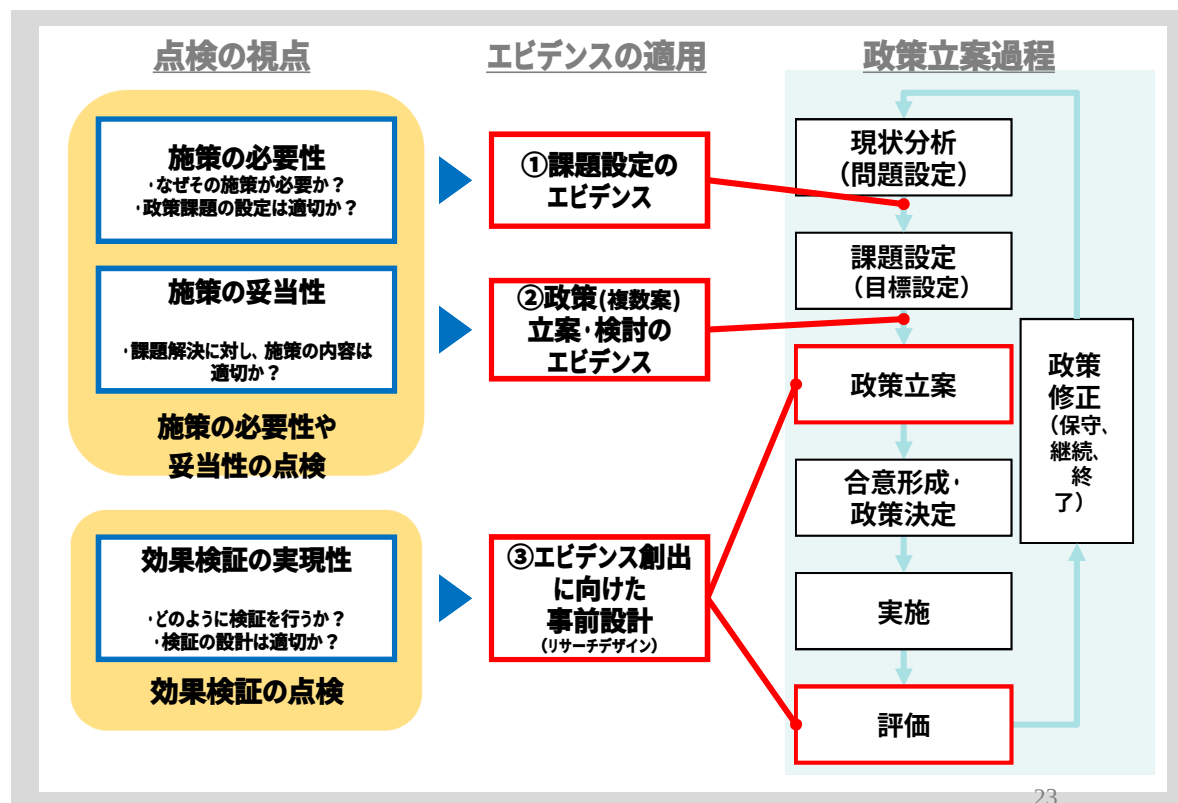
- 観点2a:

「施策の必要性」と「施策の妥当性」を示す証左としてエビデンスが適切に用いられているか
また、アウトプットやアウトカムにおいて、定量的な指標の設定が適切にできているか

- 観点2b:

効果検証方法が適切に設定されているか。エビデンス創出に向けた事前設計(リサーチデザイン)が適切か

(参考)エビデンスの適用に関する考え方



(参考)「ロジックモデル」フォーマット(2枚目)と点検項目

ロジックの確認 ①
【論理展開の妥当性】 ① インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの論理展開を以下に留意し説明すること。 ✓ 論理展開に矛盾がないかを検討し、記入する。 ※ インプットから考えた因果関係と長期アウトカムから逆って考えた因果関係が一致するかを確認する。 ※ 一致しない場合は、長期アウトカムから逆って考えた因果関係を基本として、アウトプットや短期アウトカムに修正すべき点がないかを確認する。 ✓ 短期アウトカム、長期アウトカムとして設定した指標が、ロジックに照らして妥当なものである理由を記入する。 ✓ 上記の指標が既存調査の結果から算出される場合は、調査名を記入し、新規調査や新たな制度などによる報告結果から算出される場合は、その種類(区分) (例:「新規調査」、「新制度による報告」等)を記入する。

ロジックの確認 ②	効果検証方法
【課題解決の手段としての当該事業の妥当性】 ② アクティビティの内容が妥当かを説明する。 ✓ エビデンスとして、他分野の既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果等を記入する。 ✓ 例えば、研修の開催の場合、その開催自体のみならず、対象や開催地の選定の妥当性を説明する。	・ アウトプット、短期・長期アウトカムで記載した目標年度に、目標値の達成状況など当該事業の効果を検証する旨を記入する。 ・ その際、以下についてあらかじめ明らかにしておくこと。 ✓ 事業実施前後と比較して、効果検証を行うことの実現可能性、その具体的な方法 ※ 外部要因の影響を受ける場合には、どのような外部要因が想定されるか(長期アウトカムに特に寄与すると考えられる主な関連事業の有無も含む) ✓ モデル事業の場合は、事業実施地域と事業を実施しない地域の比較方法 ✓ 上記が不可能である場合の検証方法

2. ロジックモデルの点検内容について

- 具体的な点検項目は別紙のとおり。
- なお、別紙で示している48の点検項目と、前述の点検方針の関係性を示したのが以下表である。

	[観点1a] 適切な記述	[観点1b] 論理的整合性	[観点2a] エビデンス活用・指標設定	[観点2b] 検証方法
現状分析	No.1	-	「施策の必要性」提示 No.2～4	-
課題	No.5	No.6	「施策の必要性」提示 No.7～9	-
事業概要	No.10	-	「施策の妥当性」提示 No.36～40	-
インプット	No.11	-		-
アクティビティ	No.12,14	No.13		
アウトプット	No.15	No.32	指標の設定 No.16～20	アウトプット→短期アウトカム No.41～44 アウトプット→長期アウトカム No.45～48
短期アウトカム	No.21	No.33	指標の設定 No.22～25	
長期アウトカム	No.26	No.34	指標の設定 No.27～30	
インパクト	No.31	No.35	-	-

3. 各局のロジックモデル提出について＜再掲＞

- 2020年6月19日 令和3年度予算要求事業のうち、下表に該当する事業についてロジックモデルの提出を依頼。
- 結果、総39事業分のロジックモデルが提出された。

厚生労働省における令和2年度の実施方針

○ 令和3年度概算要求プロセスにおいて、①新規事業、②モデル事業、③大幅な見直しを考えている既存事業のうち、一定の選定基準に該当するものについて、原則としてロジックモデルを作成、このうち一部を公表。

選定基準(今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定)

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が1億円以上の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業
③	大幅見直し事業	対前年度予算額50%以上増加する事業であって、かつ、増加分の差額が1億円以上の事業

※ 新型コロナウイルス感染症関連事業は原則対象外とする。また、特殊事情によりEBPMの実践が困難な場合には、個別協議の上、判断する。

除外基準(選定基準①～③に該当する事業でもロジックモデルの作成・提出を不要とする。)

	事業
i	事業の内容が、現状分析・課題分析を目的とした事業
ii	司法判断により国が実施義務を負うことが明らかな事業
iii	現在の事業において採用されている手法に代わりうる有効な手段を検討することが困難な事業 (外交的判断で意思決定されており、原局レベルで代替案を検討することができない事業等を想定。個別協議の上、判断)

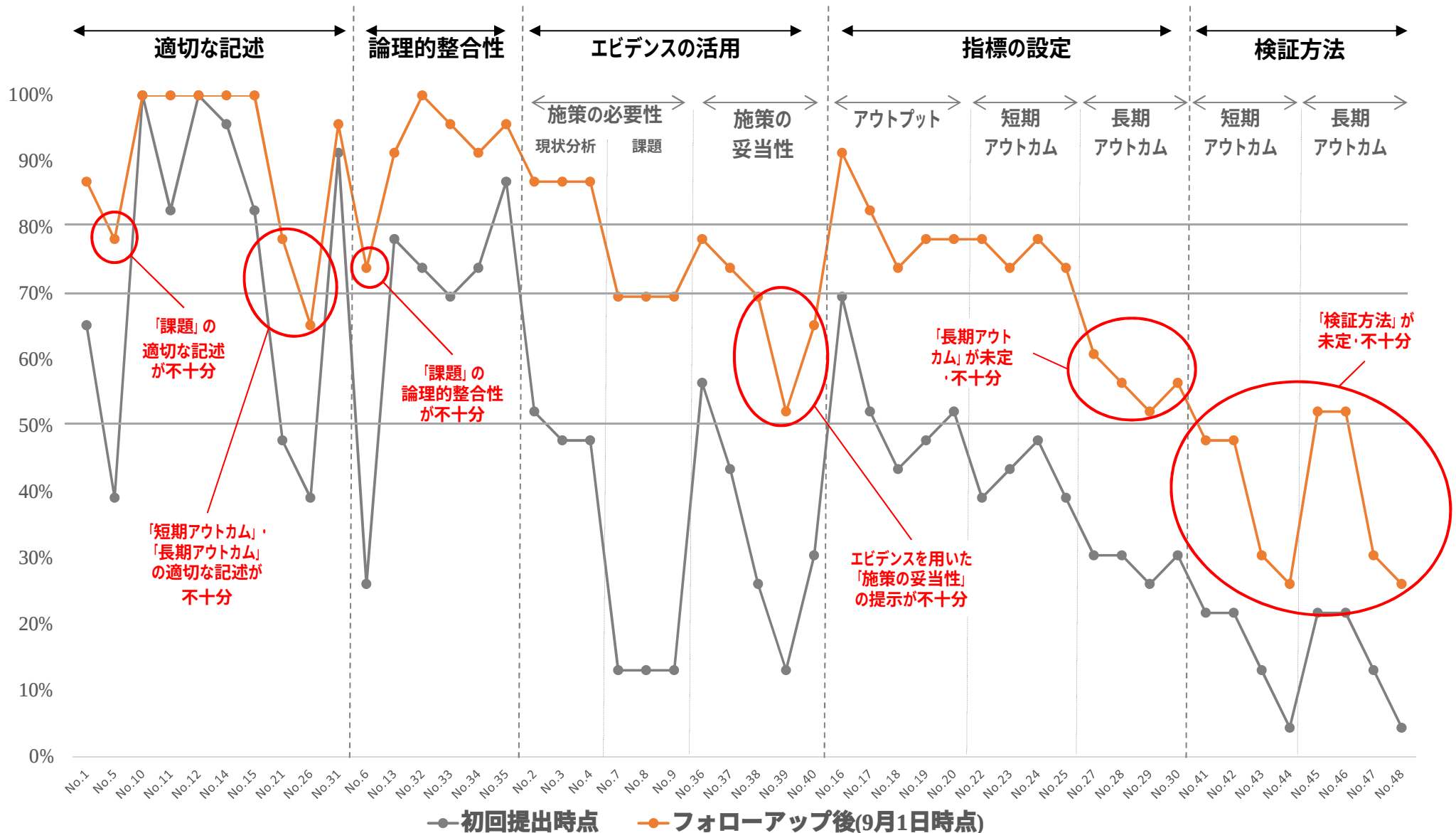
令和2年度EBPM実践事業数

提出時期	総事業数	新規事業	モデル事業	大幅見直し事業
第一次提出(7/17)	39事業			
概算要求会計課長説明に活用(8/3～8/5)	31事業	9事業	14事業	8事業
第二次提出(9月末)※9月1日時点暫定値	23事業	5事業	12事業	6事業

※(出典) 資料1「厚生労働省におけるEBPMの実践状況について」より抜粋

4. 点検結果について ①各項目ごとの点検結果について

- ロジックモデル点検結果について、フォローアップ前後で比較すると以下グラフのとおり。
- フォローアップを実施してもなお「問題なし」の事業比率が相対的に低い項目を丸印で示している。



4. 点検結果について ②点検結果のサマリ1

• 【観点1】ロジックに係る点検の結果について

- ロジックモデルの「適切な記述」や各要素間の「論理的整合性」について、初回提出時でも概ね7割以上の事業が「問題ない」と判定できる記載内容であった。その後、事務局のフォローアップを経て、多くの項目で9割以上の事業が「問題ない」記載内容となった。
- ただし、「課題」に関する項目については、初回提出時で「問題ない」と判定できる事業は5割未満であり事務局のフォローアップを経てもなお、「問題ない」記述の事業は8割に届いていない。
- また、「短期アウトカム」や「長期アウトカム」の「適切な記述」も、事務局フォローアップを経てもなお、「問題ない」記述の事業は8割未満にとどまっている。
- (※)補足：
複数の事業に共通して見られた記載不備内容として、以下のような特徴が挙げられる。
 - ✓ 「課題」が事業ありきの記載となっている。
 - ✓ 「課題」に取り組む必要性・妥当性の程度が、専門外の第三者からは判断できない。
 - ✓ 論理展開の説明が、因果の説明ではなく単なる言い換えに過ぎない。
 - 「アクティビティAを行うことでアウトプットBとなる。この結果、短期アウトカムCが見込まれる…」

4. 点検結果について ②点検結果のサマリ2

●【観点2】エビデンスに係る点検の結果について

- エビデンスを活用した「施策の必要性」提示や「施策の妥当性」提示、「指標の設定」について、初回提出時点で「問題ない」レベルの記載をしていた事業は5～6割未満であった。特に、エビデンスを活用した「課題」や「施策の妥当性」の説明は、1～2割程度の事業しか実施できていなかった。
- しかし、その後の事務局フォローアップを経ることで、概ね7割程度の事業が「問題ない」レベルの記載内容に改善された。ただし、「施策の妥当性」の説明や、「長期アウトカム」の「指標の設定」については、事務局のフォローアップを経てもなお7割の水準には届いていない。
- また、「検証方法」については、事務局フォローアップを経てもなお5割程度しか「問題ない」レベルに至っていない。特に、比較群の設定や外部要因を排除した検証方法の設定はまだ3割程度にとどまっている。
- (※) 補足：
フォローアップを経てもなお修正が必要な事業について、複数事業で共通して見られる原因は以下のとおり。
 - ✓ モデル事業で実施対象を今後選定するため、適切な指標の設定ができない。
 - ✓ 検証方法については、委員会等で今後検証するため現段階で明記できない。
 - ✓ 効果検証が進捗管理にとどまっており、政策の因果を示す設定となっていない。
 - ✓ 比較群の設定を想定していない、又は設定できない。

【補足】 4. 点検結果について -点検結果の元データ(初回提出時点)-

● 初回提出ロジックモデルの点検結果は以下のとおり （n=実践対象23事業）

	[1a]適切な記述		[1b]要素間の論理性		[2a]エビデンス活用・設定		[2b]検証方法			
現状分析	No.1	65.2%	—		No.2	52.2%	—			
					No.3	47.8%				
					No.4	47.8%				
課題	No.5	39.1%	No.6	26.1%	No.7	13.0%	—			
					No.8	13.0%				
					No.9	13.0%				
事業概要	No.10	100.0%	—		施策の妥当性		—			
					No.36	56.5%				
インプット	No.11	82.6%	—		No.37	43.5%	—			
					No.38	26.1%				
アクティビティ	No.12	100.0%	No.13	78.3%	No.39	13.0%	—			
	No.14	95.7%			No.40	30.4%				
アウトプット	No.15	82.6%	No.32	73.9%	指標の設定		アウトプット→短期アウトカム			
					No.16	69.6%				
					No.17	52.2%				
					No.18	43.5%			No.41	21.7%
					No.19	47.8%			No.42	21.7%
					No.20	52.2%			No.43	13.0%
短期アウトカム	No.21	47.8%	No.33	69.6%	指標の設定		アウトプット→長期アウトカム			
					No.22	39.1%				
					No.23	43.5%				
					No.24	47.8%				
					No.25	39.1%			No.45	21.7%
長期アウトカム	No.26	39.1%	No.34	73.9%	指標の設定		No.46	21.7%		
					No.27	30.4%	No.47	13.0%		
					No.28	30.4%	No.48	4.3%		
					No.29	26.1%				
					No.30	30.4%				
インパクト	No.31	91.3%	No.35	87.0%	—		—			

【補足】 4. 点検結果について -点検結果の元データ(フォローアップ後：9/1点検終了時点)-

• ロジックモデル最終版の各項目の点検結果は以下のとおり（n=実践対象23事業）

	[1a]適切な記述		[1b]要素間の論理性		[2a]エビデンス活用・設定		[2b]検証方法	
現状分析	No.1	87.0%	—		No.2	87.0%	—	
					No.3	87.0%		
					No.4	87.0%		
課題	No.5	78.3%	No.6	73.9%	No.7	69.6%	—	
					No.8	69.6%		
					No.9	69.6%		
事業概要	No.10	100.0%	—		施策の妥当性		—	
インプット	No.11	100.0%	—		No.36	78.3%	—	
					No.37	73.9%		
アクティビティ	No.12	100.0%	No.13	91.3%	No.38	69.6%	—	
	No.14	100.0%			No.39	52.2%		
					No.40	65.2%		
アウトプット	No.15	100.0%	No.32 100.0%		指標の設定		アウトプット→短期アウトカム	
					No.16	91.3%		
					No.17	82.6%		
					No.18	73.9%	No.41	47.8%
					No.19	78.3%	No.42	47.8%
					No.20	78.3%	No.43	30.4%
短期アウトカム	No.21	78.3%	No.33 95.7%		指標の設定		No.44	26.1%
					No.22	78.3%	アウトプット→長期アウトカム	
					No.23	73.9%		
					No.24	78.3%		
					No.25	73.9%		
長期アウトカム	No.26	65.2%	No.34 91.3%		指標の設定		No.45	52.2%
					No.27	60.9%	No.46	52.2%
					No.28	56.5%	No.47	30.4%
					No.29	52.2%	No.48	26.1%
					No.30	56.5%		
インパクト	No.31	95.7%	No.35	95.7%	—		—	

背景・経緯について

◆1. 内閣官房行政改革推進本部事務局から各府省への事務連絡

- EBPMは社会情勢の変化への対応や、新たな政策課題への対応などの観点から、政策手段についての企画立案・見直しを行う際に活用することが特に有効であることを踏まえて、取組の対象事業の検討、選定等を行う。
 - 例えば、新規事業、モデル事業、既存事業のうち見直しを考えているものなど。
- ※各府省は新規予算要求事業（10億円以上）について、事業の性質上なじまないもの等を除き、原則として、ロジックモデルを作成し、レビューシートと併せて公表するものとする。

※(出典)令和2年4月17日 内閣官房行政改革推進本部事務局『令和2年度のEBPMの取組について』より抜粋

◆2. 厚生労働省における取組の内容

- ロジックモデルの精度向上を図るため、政策立案・評価担当参事官室は、会計課と連携・協議の上、提出されたロジックモデルの中から
- ① 重点的にフォローアップ（ヒアリングの実施、エビデンス強化、効果検証方法の具体化等）する事業（「重点フォローアップ事業」）
 - ② ①のうち効果検証方法の精度向上を検討する事業（「効果検証対象事業」）を選定し、担当課等の協力の下、以下の作業を行います。

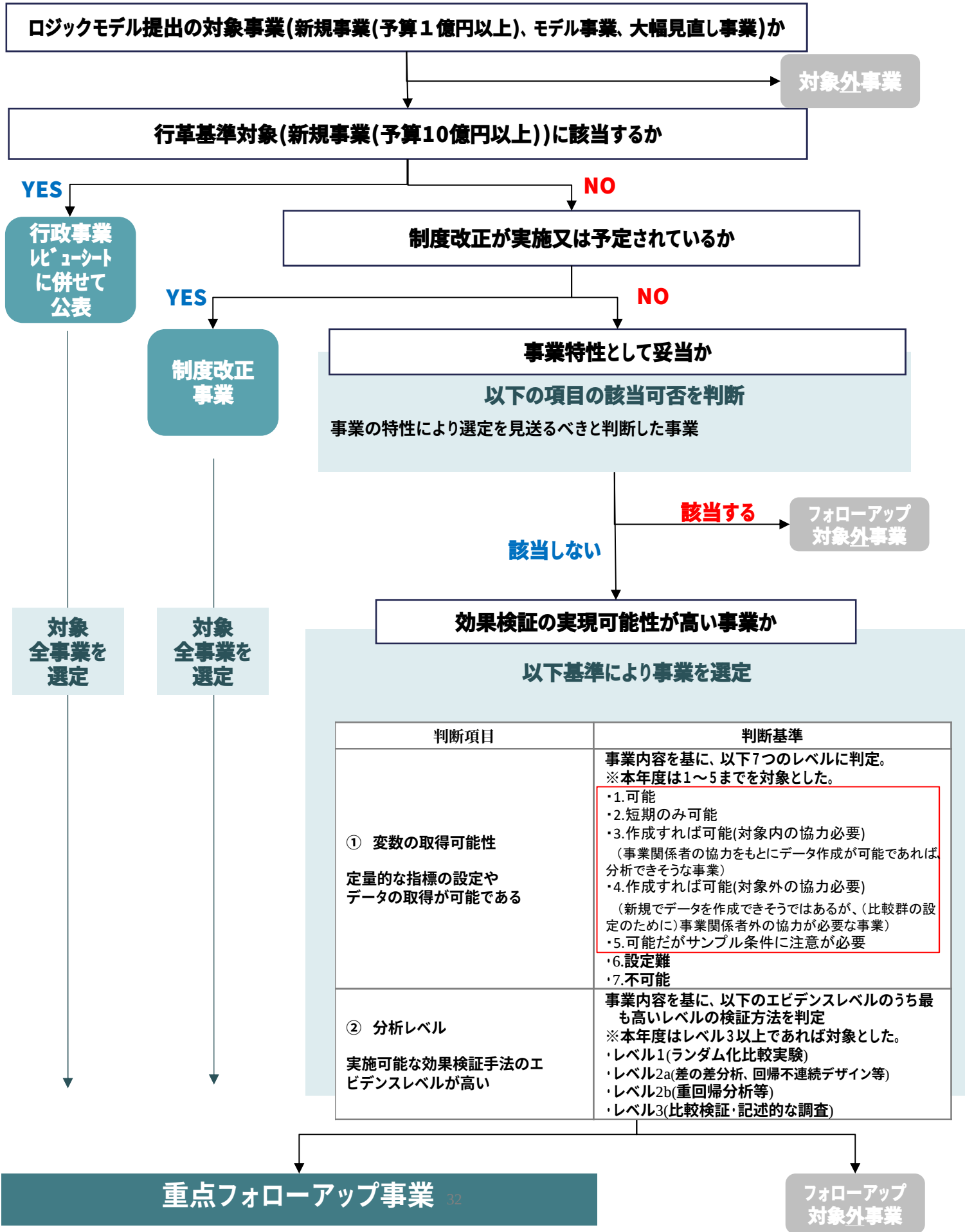
	作業内容
重点フォローアップ事業 【約15事業】	(1) EBPMの推進に係る有識者検証会（仮称）を設置し、その知見を活用して、令和2年12月までにロジックモデルのブラッシュアップを実施 (2) 完成後のロジックモデルを令和3年1月に公表 (3) 令和4年度に事業の効果検証を実施 (4) 令和4年度に一連のプロセスを事例集にまとめ公表
効果検証対象事業 (令和2年度対象事業) 【1～3事業】	(1) 上記の(1)から(3)までは同様。特に、効果検証方法の精度向上の観点から検討 (2) 令和4年度行政事業レビュー「公開プロセス」の対象候補として、行政事業レビュー外部有識者会合に提示

※(出典)令和2年6月19日 政策統括官(統計・情報政策、政策評価担当)『令和2年度のEBPMの実践について〔作業依頼〕』より抜粋

重点フォローアップ事業の選定方針

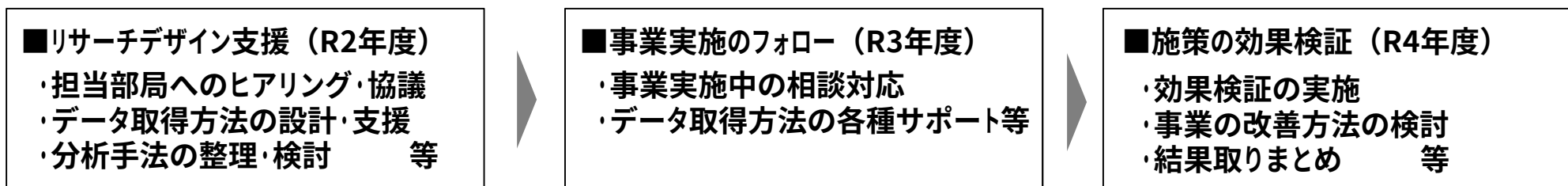
- 以下の事業については、重点フォローアップ事業として選定し、ロジックモデルの向上を図る。
- 1. 内閣官房行政改革推進本部事務局（以下「行革」という。）基準に該当する事業（新規予算要求事業（10億円）以上）
 - 2. 厚生労働省のEBPMの実践の対象事業の中から、以下①②に該当する事業
 - ① 制度改正が実施又は予定されている事業
制度改正のタイミングにおいて、事業立案者自身が既存の目標や手段について検討することから、EBPM的思考でより論理的・実証的に検討することによって事業の質が高まる（又は不要の事業をやめる）ことが期待されるため
 - ② 効果検証の実現可能性が高い事業
例えば、モデル事業などが該当する。このような事業は目的実現のためにどのような手段が有効かを検討する性質を有していることから、自ずとEBPM的思考で検討するものであり、ロジックモデル等を用いてより論理的に検討することや、実績となるデータの収集等のEBPM的思考の具体的実践が行いやすいため

2. 重点フォローアップ事業選定フロー及び選定基準について



事業の位置づけ

- ・重点フォローアップ事業(15事業)のうち1～3事業を「効果検証対象事業」とする。事業の研究デザイン支援(今年度)や事業実施に伴うデータの蓄積(R3年度)を行った上で、R4年度に効果検証の実施を図る。
- ・なお、「効果検証対象事業」はR4年度の行政事業レビュー「公開プロセス」の対象候補となる予定である。



事業選定方針

- ・上記位置付けを鑑み、以下の方針で対象事業を選定する。
1. 「効果検証」に係る模範事例となり得ることから、①データの活用可能性に加え、②事業の展開可能性も鑑みて選定する。
 2. リサーチデザイン実施には、③担当部局のヒアリング結果も加味し事業を決定する。

①データの活用可能性

- ✓公的統計や事業で取得する情報など、分析に必要なデータが利用可能か
- ✓エビデンスレベルの高い分析手法を活用できるか

②事業の展開可能性

- ✓効果検証で得た分析結果が事業の改善改良に寄与するか
- ✓省内の他領域にも参照される事業特性を有しているか



③担当部局のヒアリング結果

- ✓データの共有や分析結果の公開に大きな障壁がないか



**効果検証
対象事業
決定**
(1～3事業)

厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会開催要綱

1 目的

みずほ情報総研株式会社では、厚生労働省から委託を受け、令和2年度にEBPM推進に係る調査研究事業を実施している。

本事業の一環として、厚生労働省統計改革ビジョン2019工程表（令和元年10月8日）に基づき、外部有識者によるEBPMの実践状況の検証等を行い、EBPMの更なる推進を図ることを目的として、外部有識者による検証会を開催する。

2 検証事項

（1）ロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等の精度向上に係る検証

（2）次年度のEBPMの実践に向けた検証

- ① 事業のスクリーニング基準に係る検証
- ② 予算過程での反映方法に係る検証
- ③ 事後の効果検証スキーム等の精度向上に係る検証
- ④ その他EBPMの取組に関する全体スキームに係る検証

3 構成員

別紙のとおり

4 運営等

（1）検証会は、みずほ情報総研株式会社が別紙の構成員の参集を求めて開催する。

（2）検証会は、構成員のうち1人を座長として選出する。

（3）検証会は、座長代理を置くことができる。

座長代理は、座長が構成員の中から指名するものとし、座長を補佐し、座長不在の場合にはその職務を行う。

（4）座長は、検証会において必要があると認めるときは、構成員以外の関係者に検証会への出席を求め、意見を聴くことができる。

（5）検証会は、原則として公開する。ただし、座長は、公開することにより検討に著しい支障を及ぼすおそれがあると認めるとき、その他正当な理由があると認めるときは、会議を非公開とすることができる。

（6）検証会の庶務は、みずほ情報総研株式会社において行う。

（7）前各項のほか、検証会の運営その他の検証会に関し必要な事項は、座長が定める。

別紙

厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会構成員

(五十音順、敬称略)

駒村 康平	慶應義塾大学 経済学部 教授
田中 隆一	東京大学社会科学研究所 教授
野口 晴子	早稲田大学 政治経済学術院 教授
森川 想	東京大学 大学院工学系研究科 講師

ロジックモデル点検結果
コメントシート

	事業名	〇〇〇〇〇推進検討事業
	担当部局	〇〇〇局〇〇〇課
	予算規模（百万円）	〇〇百万円
	事業区分	※当てはまるものに○
		○新規事業
		○モデル事業
	大幅見直し施策	
	ロジックモデル提出日	2020/〇/〇〇 ※本シートの点検対象であるバージョンの提出日

表の見方

→修正必須項目

○ 記入要領どおりに記載されていないため、修正が必要な項目

→修正推奨項目

○ 記入要領に沿って記載されているが、同要領の観点からは改善の余地があり、更なるエビデンスレベルの向上などが望ましい

→未点検の項目

○ 点検対象箇所の記入不備により、点検ができない項目

ロジックモデルp.1 現状分析・課題・事業概要

対応 必須/ 推奨	点検結果	ロジックモデルの 点検対象箇所	チェックコメント	修正の方法・ヒント	[参考] マニュアルの 対応するペー ジ	[参考] 記入要領の 対応するペー ジ	修正イメー ジ (リンク)	その他	再点検のために 修正が必要な項 目 (「未点検」の場 合)
1	必須	問題なし	「現状分析」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、当該事業が求められる背景事情を説明する必要がある。 具体的には、「①エビデンスを用いて ②定量的に ③分析した」現状の記載となっているかを確認し、①～③の全てが満たされるように記載内容を見直す必要がある。	p.6「3. EBPMで何ができるのか？」 p.12「3. ロジックモデルの書き方・手順 1 正しい現状把握・課題設定を行う」	p.2「3. 現状分析」			
2	必須	問題なし	「現状分析」にエビデンスが記入されていない。	記入要領に従い、課題を説明するために必要なエビデンスを別紙に添付する必要がある。また、「現状分析」の記入内容を、そのエビデンスに基づき現状を分析した内容に修正する必要がある。 なお、事業の根拠が法令や計画等である場合にも、その背景となったエビデンス（又は、法令や計画等と関係はないが、事業の現状を示すエビデンス）を記入し、それに基づいた現状を分析した結果を示す必要がある。	p.18「5. ロジックモデルの点検-よくある間違い①」 p.20「1. エビデンスとは何か？」 ※今回のロジックモデルにおける「エビデンス」は、マニュアルp.20下部に記載のある「広義のエビデンス」に定義されます。	p.2「3. 現状分析」	修正事例		
3	推奨	問題なし	「現状分析」に添付されたエビデンスのレベルを向上させることが望ましい。	現在記入しているエビデンスについて、エビデンスレベル1～3に向上させることが望ましい。 レベル1～3のエビデンスを新たに調べるとともに、そうした新たなエビデンスを踏まえても「現状分析」の記入内容が適切かどうか再検討することが望ましい。 ＜参考：エビデンスレベル＞ レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分分析、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査（※因果関係に関する分析を行わず、統計指標を時系列で比較しただけの場合など）	p.3「1. EBPMとは何か？」 p.20-24「第3章 エビデンスとは」	p.2「3. 現状分析」	修正事例		
4	推奨	問題なし	「現状分析」の内容の根拠として、現在添付されている「エビデンス」より論理的に整合するエビデンスを設定することが望ましい。	「現状分析」の記載内容がエビデンスに基づき論理的な内容であるかを再度確認し、現在添付されている「エビデンス」より論理的に整合するエビデンスを設定することが望ましい。	p.8-14「第2章 ロジックモデルの活用 1. なぜロジックモデルなのか？～3. ロジックモデルの書き方」 p.18「5. ロジックモデルの点検-よくある間違い①②」 p.20-25「第3章 エビデンスとは」	p.2「3. 現状分析」	修正事例		
5	必須	修正対象	「課題」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の前提となる政策課題や社会問題を、エビデンスとともに説明する必要がある。 具体的には、「①エビデンスを用いて ②現状とあるべき姿を比較しながら ③現在の課題を解決すべきことを示した」記載となっているかを確認し、①～③の全てが満たされるように記載内容を見直す必要がある。	p.6「3. EBPMで何ができるのか？」 p.9-10「3. ロジックモデルとは何か？」 p.12-14「3. ロジックモデルの書き方・手順1 正しい現状把握・課題設定を行う」	p.2「4. 課題」			
6	必須	問題なし	「課題」の記入内容が「長期アウトカム」に対応していない。	「課題」に記入した内容が、事業の結果もたらされる「長期アウトカム」と対応関係にある必要がある。	p.13-14「3. ロジックモデルの書き方・手順 4 事業の実施前に、効果の検証方針を決めておく」	p.2「4. 課題」 p.3「10. 長期アウトカム」			
7	必須	問題なし	「課題」にエビデンスが記入されていない。	記入要領に従い、「課題」を説明するために必要なエビデンスを別紙に添付し、それを踏まえた課題を記入する必要がある。	p.18「5. ロジックモデルの点検-よくある間違い①」 p.20「1. エビデンスとは何か？」 ※今回のロジックモデルにおける「エビデンス」は、マニュアルp.20下部に記載のある「広義のエビデンス」に定義されます。	p.2「4. 課題」			
8	推奨	修正対象	「課題」に添付されたエビデンスのレベルを向上させることが望ましい。	現在記入しているエビデンスについて、エビデンスレベル1～3に向上させることが望ましい。 レベル1～3のエビデンスを新たに調べるとともに、そうした新たなエビデンスを踏まえても「現状分析」の記入内容が適切かどうか再検討することが望ましい。 ＜参考：エビデンスレベル＞ レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分分析、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査（※因果関係に関する分析を行わず、統計指標を時系列で比較しただけの場合など）	p.3「1. EBPMとは何か？」 p.20-24「第3章 エビデンスとは」	p.2「4. 課題」	修正事例		
9	推奨	修正対象	「課題」の内容の根拠として、現在添付されている「エビデンス」より論理的に整合するエビデンスを設定することが望ましい。	「課題」の記載内容がエビデンスに基づき論理的な内容であるかを再度確認し、現在添付されている「エビデンス」より論理的に整合するエビデンスを設定することが望ましい。	p.8-14「第2章 ロジックモデルの活用 1. なぜロジックモデルなのか？～3. ロジックモデルの書き方」 p.18「5. ロジックモデルの点検-よくある間違い①②」 p.20-25「第3章 エビデンスとは」	p.2「4. 課題」	修正事例		
10	必須	問題なし	「事業概要」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の内容を簡潔に記入する必要がある。 特に、「アウトプット」や「短期アウトカム」、「長期アウトカム」との関連や対応が論理的に理解できる単位での箇条書きとすることが必要。修正に応じて、対応して記載する「アクティビティ」の記載も修正する必要がある。	p.12-14「3. ロジックモデルの書き方」 p.18「5. ロジックモデルの点検-よくある間違い①②」	p.2「5. 事業概要」 p.3「7. アクティビティ」～「10. 長期アウトカム」	修正事例		

ロジックモデルp.1 インプット～インパクト										
	対応 必須/ 推奨	点検結果	対象項目	チェックコメント	修正の方法・ヒント	【参考】 マニュアルの対応す るページ	【参考】 記入要領の対応す るページ	修正イメージ (リンク)	その他	【備考】 (未点検の場合に、 再点検のために修正 が必要な項目)
11	必須	問題なし	インプット	「インプット」が、記 入要領どおりに記 載されていない。	記入要領に従い、令和３年度概算要求額を記入（単位：百万円）する必要がある。なお、モデル事業の うち既存事業の場合や大幅見直し事業の場合には、令和２年度予算額と執行額（又は執行見込額）も 記入する必要がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.2「6.インプット」			
12	必須	問題なし	アクティビティ	「アクティビティ」が、 記入要領どおりに 記載されていな い。	記入要領に従い、「アクティビティ」には、事業の実施内容を記入する必要がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.2「5.事業概要」 p.3「7.アクティビ ティ」			
13	必須	問題なし	アクティビティ	「アクティビティ」の 記入内容が、「事業概要」の項目と 対応していない。	「アクティビティ」の記入内容は、「事業概要」欄に箇条書きした項目と対応した項目で記入する必要がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.2「5.事業概要」 p.3「7.アクティビ ティ」			
14	推奨	問題なし	アクティビティ	「アクティビティ」を より具体的に記入 することが望まし い。	ロジックモデルに記入した事業に含まれる施策に、「現状分析」「課題」に対応した実施事項が他にないか確認 し、該当する実施事項があれば、「事業概要」及び「アクティビティ」欄に追記することが望ましい。	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」	p.2「3.現状分析」 ～「5.事業概要」 p.3「7.アクティビ ティ」			
15	必須	問題なし	アウトプット	「アウトプット」が、 記入要領どおりに 記載されていな い。	記入要領に従い、「アウトプット」には、「アクティビティの結果として生み出される事業活動の直接的な実績」を 記入する必要がある。記入に際しては、以下の２点に留意する必要がある。 ・実績を示す指標と、令和３年度の目標値をアクティビティごとに記入する ・行政事業レビューシートの「活動指標及び活動実績（アウトプット）」の指標と同一の指標を利用する	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」 p.17-19「5.ロジック モデルの点検」	p.3「7.アクティビ ティ」、「8.アウトプッ ト」			
16	推奨	修正対象	アウトプット	「アウトプット」に定 量的な指標を設 定することが望まし い。	「アウトプット」に定量的な目標・指標を設定することが望ましい。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.3「8.アウトプット」			
17	必須	問題なし	アウトプット、短期 アウトカム、長期ア ウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】 設定 した指標を算出す る調査名等	「アウトプット」「短期ア ウトカム」「長期アウトカム」 に設定した指標を算出 する調査名等が記入さ れていない。	指標の算出に用いる調査名等を別紙に記入する必要がある。 ※既存調査の場合には①調査名 ②調査周期 ③直近の調査の結果確定時期 を記載。 新規調査・新たな制度による報告結果等の場合には、以下の内容を記載。 ①区分…「新規調査」「新たな制度による報告結果」 等 ②調査の概要 （概要が未定の場合でも、調査予定時期を記載）	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサー チデザインとは？」	p.3「8.アウトプット」 ～「10.長期アウトカ ム」			
18	必須	修正対象	アウトプット＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】 アウト プット欄	「アウトプット」の目標 値（水準）の設定 理由について、適切 な理由を記入する必 要がある。	アウトプットの目標値（水準）の設定理由として、以下の条件のいずれかに当てはまる理由を記入する必要がある。適切な理由が設定できない場合には、当該アウトプット指標を変更する必要がある。 （適切な理由の例） ・アクティビティを実施したことにより、直接的に発生する実績であること（例：委員会実施件数、研修実施回数、●●施設設置件数、印刷数等） ・アクティビティを実施したことにより、直接的に発生する実績の代理指標として客観的に妥当なもの	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」 p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」	p.3「7.アクティビ ティ」、「8.アウトプッ ト」			
19	推奨	問題なし	アウトプット＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】 アウト プット欄	「アウトプット」の目標 達成時期の設定理 由について、客観的 に妥当と考えられる か再考することが望ま しい。	目標年度が令和３年度以降であるアウトプットについては、目標年度を令和３年度以降に設定しなければならない適切な理由を記載するか、アウトプットの指標自体を変更又は目標年度を令和３年度に変更することが望ましい。 （適切な理由の例） ・「アウトプット」として設定する指標が公的統計であり、事業の効果を反映した当該統計結果が令和３年度までに公表されず、令和３年度時点ではアウトプットが存在しないため ・「アウトプット」として設定する指標が、集計に時間を要する等の理由により、令和３年度中に把握することが困難であり、令和３年度時点ではアウトプットが存在しないため	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサー チデザインとは？」	p.3「7.アクティビ ティ」、「8.アウトプッ ト」			
20	推奨	修正対象	アウトプット＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】 アウト プット欄	「アウトプット」の目標 達成時期と、実際に 調査等により指標が 算出される時期を一 致させることが望まし い。	「アウトプット」の目標達成時期と、実際に調査等により指標が算出される時期を一致させることが望ましい。 具体的には、以下の２点の確認を行い、必要な対応を取ることが望ましい。 ①「アウトプット」の目標年度、「アウトプット」に設定した指標の調査の実施予定時期に誤記がないかを確認する。 ②誤記がない場合、以下のいずれかにより対応する。 - 現在のアウトプットの指標を、目標年度までに実施予定のある（実施可能な）別の調査等により取得 - アウトプットの指標を、目標年度に取得可能な指標に変更 - アウトプットの目標年度を、調査の実施予定時期に合わせて変更	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサー チデザインとは？」	p.3「8.アウトプット」			
21	必須	問題なし	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】 短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」が、 記入要領どおりに記 載されていない。	記入要領に従い、「短期アウトカム」には、「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待する成果」の中でも短期的に期待される成果を記入する必要がある。なお、「短期アウトカム」は定量的な 指標を設定することが求められ、可能な限り令和３年度を目標年度とする必要がある。	p.9-10「2.ロジックモデルとは 何か？」 p.12-14「3.ロジックモデル の書き方」 p.15-16「4.リサーチデザイン とは？」 p.17-19「5.ロジックモデル の点検」	p.3「7.アクティビティ」～「8. 短期アウトカム」	修正事例		
22	推奨	問題なし	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】 短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」に 定量的な指標を設 定することが望まし い。又は、定量的で ない理由を論理的に 整合する形で説明す	「短期アウトカム」に、定量的な目標・指標を設定することが望ましい。また、定量的な目標・指標を設定できない場合には、その理由を「p.2 ロジックの確認①」に記入することが望ましい。	p.9-10「2.ロジックモデルとは 何か？」 p.12-14「3.ロジックモデル の書き方」 p.15-16「4.リサーチデザイン とは？」 p.17-19「5.ロジックモデル の点検」	p.3「7.アクティビティ」～「8. 短期アウトカム」	修正事例		
23	必須	問題なし	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】 短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」の 目標値（水準）の 設定理由について、 適切な理由を記入 する必要がある。	「短期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、客観的な視点から妥当と考えられる理由を設定 する必要がある。適切な理由が設定できない場合には、当該短期アウトカム指標を変更又は削除する必要 がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」	p.3「8.アウトプッ ト」、「9.短期アウト カム」	修正事例		
24	推奨	修正対象	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】 短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」の 目標達成時期の設 定理由について、客 観的に妥当と考えら れるか再考することが 望ましい。	目標年度が令和３年度以降である短期アウトカムについては、目標達成時期を令和３年度以降に設定しな ければならない適切な理由を記載するか、短期アウトカムの指標自体を変更又は目標年度を令和３年度に 変更することが望ましい。	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサー チデザインとは？」	p.3「7.アクティビ ティ」、「9.短期アウト カム」	修正事例		
25	推奨	問題なし	短期アウトカム＆ （別紙）【各指標 の目標水準及び 目標達成時期の 設定理由】 短期 アウトカム欄	「短期アウトカム」の 目標達成時期と、実 際に調査等により指 標が算出される時期 を一致させることが望 ましい。	「短期アウトカム」の目標達成時期と、実際に調査等により指標が算出される時期を一致させることが望ましい。 具体的には、以下の２点の確認を行い、必要な対応を取ることが望ましい。 ①「短期アウトカム」の目標年度、「短期アウトカム」に設定した指標の調査の実施予定時期に誤記がないかを確認する。 ②誤記がない場合、以下のいずれかにより対応する。 - 現在の短期アウトカムの指標を、目標年度までに実施予定のある（実施可能な）別の調査等により取得 - 短期アウトカムの指標を、目標年度に取得可能な指標に変更 - 短期アウトカムの目標年度を、調査の実施予定時期に合わせて変更	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサー チデザインとは？」	p.3「9.短期アウトカ ム」			

26	必須	修正対象	長期アウトカム & (別紙) [各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由] 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「長期アウトカム」として、「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待する成果」の中でも長期的に期待される成果であり、「課題が実現された状態（あるべき姿）」を示す項目と、その目標値を記入する必要がある。 なお、可能な限り、長期アウトカムの目標値は既存計画のKPIや目標値を参考に設定する必要がある。また、目標値の達成時期は当該事業に関連する施策の見直し時期等を踏まえて設定する必要がある。	p.9-10「2.ロジックモデルとは何か？」 p.12-14「3.ロジックモデルの書き方」 p.15-16「4.リサーチデザインとは？」 p.17-19「5.ロジックモデルの点検」	p.3「7.アクティビティ～「10.長期アウトカム」	修正事例		
27	推奨	未点検	長期アウトカム & (別紙) [各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由] 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」に定量的な指標を設定することが望ましい。又は、定量的でない理由を論理的に整合する形で説明す	「長期アウトカム」に、定量的な目標・指標を設定することが望ましい。また、定量的な目標・指標を設定できない場合には、その理由を「p.2 ロジックの確認①」に記入することが望ましい。	p.9-10「2.ロジックモデルとは何か？」 p.12-14「3.ロジックモデルの書き方」 p.15-16「4.リサーチデザインとは？」 p.41-47「第5章エビデンスの収集」	p.3「7.アクティビティ～「10.長期アウトカム」	修正事例		
28	必須	未点検	長期アウトカム & (別紙) [各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由] 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入する必要がある。	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由として、「長期アウトカム」が満たすべき以下の条件を参考として、適切な理由を設定する必要がある。適切な理由が設定できない場合には、当該長期アウトカム指標を変更又は削除する必要がある。 （長期アウトカムの指標が満たすべき条件） ・アクティビティ、アウトプット、短期アウトカムを経て、実現される長期的な成果を示す指標であること ・指標によって示されている「長期アウトカム」が、「課題」に対応したものであること ・長期アウトカムが実現された状態を計測可能な指標であること	p.9-10「2.ロジックモデルとは何か？」	p.3「7.アクティビティ～「10.長期アウトカム」			
29	推奨	未点検	長期アウトカム & (別紙) [各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由] 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、客観的に妥当と考えられるか再考することが望ましい。	「長期アウトカム」の、関連法令や既存計画の中間評価年度・最終年度・見直し年度等を参考に目標達成時期を設定することが望ましい。	p.12-14「3.ロジックモデルの書き方」 p.15-16「4.リサーチデザインとは？」	p.3「10.長期アウトカム」			
30	推奨	未点検	長期アウトカム & (別紙) [各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由] 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標達成時期と、実際に調査等により指標が算出される時期を一致させることが望ましい。	「長期アウトカム」に、目標達成時期と、実際に調査等により指標が算出される時期を一致させることが望ましい。 具体的には、以下の2点について確認・対応することが望ましい。 ① 長期アウトカムの目標年度、長期アウトカムに設定した指標の調査の実施予定時期に誤記がないかを確認する。 ② 誤記がない場合、以下のいずれかにより対応する。 - 現在の長期アウトカムの指標を、目標年度までに実施予定のある（実施可能な）別の調査等により取得 - 長期アウトカムの指標を、目標年度に取得可能な指標に変更 - 長期アウトカムの目標年度を、調査の実施予定時期に合わせて変更	p.12-14「3.ロジックモデルの書き方」 p.15-16「4.リサーチデザインとは？」	p.3「10.長期アウトカム」			
31	必須	問題なし	インパクト	「インパクト」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「行政事業レビューシート」の「政策評価、新経済・財政再生計画との関係」欄のうち、「政策評価」の「施策」欄と同じ内容を記入する必要がある。その際には、当該事業が寄与すると考えられる政策レベルの最終目標を記入する必要がある。	p.9-10「2.ロジックモデルとは何か？」	p.4「11.インパクト」			

ロジックモデルp.2 ロジックの確認①②/効果検証方法										
	対応 必須/ 推奨	点検結果	対象項目	チェックコメント	修正の方法・ヒント	【参考】 マニュアルの対応す るページ	【参考】 記入要領の対応す るページ	修正イメージ (リンク)	その他	【備考】 (未点検の場合に、 再点検のために修正 が必要な項目)
32	必須	問題なし	ロジックの確認① (論理展開の妥 当性)	「アクティビティ」と「ア ウトプット」の因果関 係が論理的に明確 ではないため、修正 する必要がある。	「アクティビティ」の直接的な結果として生み出される"実績"を「アウトプット」の指標として設定する必要がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」 p.21-25「2.「因果 関係」を知る」	p.3「7.アクティビ ティ」～「8.アウトプ ット」 p.4「1. ロジックの 確認①」	修正事例		
33	必須	問題なし	ロジックの確認① (論理展開の妥 当性)	「アウトプット」と「短 期アウトカム」の因果 関係が論理的に明 確ではないため、修 正する必要がある。	「アウトプット」（事業の実績）が、「短期アウトカム」（事業の成果）をもたらすことが客観的に見て明らかになるように修正するか、アウトプット又は短期アウトカムの指標を変更する必要がある。 具体的には、現在示されている各アウトプットと各短期アウトカムの関係について、以下の観点から検証し、記述を修正する必要がある。 ＜検証の観点＞ 検証①：それぞれの「アウトプット」について、「短期アウトカム」に至るまでのメカニズムを論理的に説明できるか？その中に無理のある論理展開はないか？ 検証②：それぞれの「短期アウトカム」について、「短期アウトカム」の実現に貢献しうる事業内の「アウトプット」を全て考慮した論理展開になっているか？その中に無理のある論理展開はないか？ 「短期アウトカム」（事業の短期的な成果）が、「長期アウトカム」（事業の長期的な成果）につながるが客観的に見て明らかになるように修正するか、短期アウトカム又は長期アウトカムの指標を修正する必要がある。 具体的には、現在示されている各短期アウトカムと長期アウトカムの関係について、以下の観点から検証し、記述を修正する必要がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」 p.21-25「2.「因果 関係」を知る」	p.3「7.アクティビ ティ」、「9.短期アウ トカム」 p.4「1. ロジックの 確認①」	修正事例		
34	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥 当性)	記入要領どおりに記載 されていないため、修正 する必要がある。（「短期 アウトカム」と「長期アウ トカム」の因果関係が論 理的に明確ではない。）	「短期アウトカム」が「長期アウトカム」に至る因果関係が論理的に明確ではないため、修正する必要がある。 具体的には、現在示されている各短期アウトカムと長期アウトカムの関係について、以下の観点から検証し、記述を修正する必要がある。 ＜検証の観点＞ 検証①：それぞれの短期アウトカムについて、いずれかの長期アウトカムに対する因果関係が明確に説明できるか。 検証②：それぞれの長期アウトカムについて、いずれかの短期アウトカムからの因果関係が明確に説明できるか。（どの短期アウトカムとも論理的に因果関係を説明できない長期アウトカムが存在していないか） 「長期アウトカム」（事業の長期的な成果）が「インパクト」（当該事業が寄与すると考えられる政策レベルの最終的な目標）をもたらすことが客観的に見て明確になるように修正するか、長期アウトカムの記載を修正する必要がある。 具体的には、現在示されている長期アウトカムとインパクトの関係について、以下の観点から検証し、記述を修正する必要がある。	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」 p.21-25「2.「因果 関係」を知る」	p.3「9.短期アウ トカム」、「10.長期アウ トカム」 p.4「1. ロジックの 確認①」	修正事例		
35	必須	問題なし	ロジックの確認① (論理展開の妥 当性)	「長期アウトカム」が 「インパクト」に至る因 果関係が論理的に 明確ではないため、 修正する必要がある。	「長期アウトカム」が「インパクト」（当該事業が寄与すると考えられる政策レベルの最終的な目標）をもたらすことが客観的に見て明確になるように修正するか、長期アウトカムの記載を修正する必要がある。 具体的には、現在示されている長期アウトカムとインパクトの関係について、以下の観点から検証し、記述を修正する必要がある。 ＜検証の観点＞ 検証①：それぞれの長期アウトカムについて、当該長期アウトカムがインパクトに影響をもたらす因果関係を明確に説明できるか。 検証②：それぞれの長期アウトカムがインパクトに影響をもたらすうえで想定すべき外部要因（事業以外で前提となる制度改定、社会動向等）は過不足なく記入されているか。 記入要領に従い、課題解決の手段としての当該事業の妥当性を示す説明を記入する必要がある。 その際には、①・②の双方に触れながら、論理的に説明する必要がある。 ①当該事業が課題解決の手段として効果があることを示すエビデンス（学術研究、既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果など） ②当該事業を行う上で、その内容（開催場所、調査・開催件数、アプローチ対象等）が他の候補と比べて妥当であることを示すエビデンス	p.9-10「2.ロジック モデルとは何か？」 p.21-25「2.「因果 関係」を知る」	p.3「10.長期アウ トカム」、「11.イン パクト」 p.4「1. ロジックの 確認①」			
36	必須	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認 ②」の記入内容 が、記入要領ど おりに記載されてい ない。	記入要領に従い、課題解決の手段としての当該事業の妥当性を示す説明を記入する必要がある。 その際には、①・②の双方に触れながら、論理的に説明する必要がある。 ①当該事業が課題解決の手段として効果があることを示すエビデンス（学術研究、既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果など） ②当該事業を行う上で、その内容（開催場所、調査・開催件数、アプローチ対象等）が他の候補と比べて妥当であることを示すエビデンス	p.13「3.ロジックモデ ルの書き方-手順2 目標から選んで、取 り得る政策手段の選 択肢を洗い出す」	p.6「2. ロジックの 確認②」	修正事例		
37	必須	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認 ②」にエビデンスが 記入されていな い。	記入要領に従い、妥当性を説明するだけでなく、そのエビデンスを添付するとともに、概要を「ロジックの確認②」欄に記入する必要がある。 記入に際しては、以下に該当するエビデンスの双方を添付する必要がある。 ①当該事業が課題解決の手段として効果があることを示すエビデンス（例：学術研究、既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果など） ②当該事業を行う上で、その内容（開催場所、調査・開催件数、アプローチ対象等）が他の候補と比べて妥当であることを示すエビデンス （例：学術研究、対象となるモノの集積状況、他事業における実績等）	p.13「3.ロジックモデ ルの書き方-手順2 目標から選んで、取 り得る政策手段の選 択肢を洗い出す」 p.20「1.エビデンスと は何か」	p.6「2. ロジックの 確認②」			
38	推奨	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認②」のエビ デンスが、課題設定に対して アクティビティが効果的であ ること（課題に対する対応 策としてアクティビティが成 立していること）を示す根 拠として客観的に妥当と考 えられるが再考することが望 ましい。	「ロジックの確認②」に記載されているエビデンスについて、課題設定に対してアクティビティが効果的であることを示す根拠として、より適切なエビデンスを記入することが望ましい。	p.20-25「第3章 エ ビデンスとは」	p.3「7.アクティビ ティ」 p.6「2. ロジックの 確認②」	修正事例		
39	推奨	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認②」のエビ デンスが、当該事業の 内容が、他の想定される 事業と比較して妥当であ ることの根拠として客観 的に妥当と考えられるか 再考することが望ましい。	「ロジックの確認②」欄に、当該事業の内容が、他の想定される事業と比較して妥当である客観的な根拠となるエビデンスを記入することが望ましい。	p.20-25「第3章 エ ビデンスとは」	p.6「2. ロジックの 確認②」	修正事例		
40	推奨	問題なし	ロジックの確認② (課題解決の手 段としての当該事 業の妥当性)	「ロジックの確認②」 のエビデンスのレベル を向上させることが望 ましい。	それぞれのエビデンスについてエビデンスレベルを確認し、レベル1～3に向上させることが望ましい。 ＜参考＞エビデンスレベル レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分分析、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査 -----	p.3「1.EBPMとは 何か？」 p.20-25「第3章 エ ビデンスとは」	p.6「2. ロジックの 確認②」			
41	必須	問題なし	効果検証方法	記入要領どおりに記 載されていない （「短期アウトカム」 の効果検証方法が 具体的に記入されて いない。）。	「短期アウトカム」の効果検証方法を、効果検証の対象となる短期アウトカムの指標、考えられる検証の方法（調査の方法、分析の方法）、実現可能性等が明確になるように、具体的に記入する必要がある。 上記に伴い、短期アウトカムの指標等に変更が生じた場合には、別紙「各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由」の対応箇所を変更する必要がある。	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.26-40「第4章 施策の効果検証」	p.3「9.短期アウ トカム」 p.6「3. 効果検証 方法」	修正事例		
42	推奨	修正対象	効果検証方法	「短期アウトカム」の 効果検証方法により 得られるエビデンスの レベルを向上させるこ とが望ましい。	それぞれのエビデンスについてエビデンスレベルを確認し、レベル1～3に向上させることが望ましい。 ＜参考＞エビデンスレベル レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分分析、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査 -----	p.3「1.EBPMとは 何か？」 p.20-25「第3章 エ ビデンスとは」	p.3「9.短期アウ トカム」 p.6「3. 効果検証 方法」			
43	推奨	修正対象	効果検証方法	「短期アウトカム」の 効果検証方法を、 対照群と比較して事 業の効果を計測でき るように設計するこ とが望ましい。	「短期アウトカム」の効果検証の方法は、可能な範囲で事業の効果が及んでいない対照群との比較による方法を設計することが望ましい。	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.15-16「4.リサ ーチデザインとは？」 p.26-30「1.基本 的な考え方」	p.3「9.短期アウ トカム」 p.6「3. 効果検証 方法」	修正事例		
44	推奨	修正対象	効果検証方法	「短期アウトカム」の 効果検証方法を、 外部要因を考慮した 設計とすることが望ま しい。	「短期アウトカム」の効果検証の方法は、極力外部要因を排除して事業の効果を計測する方法とすることが望ましい。	p.21-24「2.「因果 関係」を知る （特に「（2）第 三の要因（交絡因 子）による可能性 （3）偶然である 可能性）」	p.3「9.短期アウ トカム」 p.6「3. 効果検証 方法」	修正事例		
45	必須	修正対象	効果検証方法	記入要領どおりに記 載されていない （「長期アウトカム」 の効果検証方法が 具体的に記入されて いない。）。	「長期アウトカム」の効果検証方法を、効果検証の対象となる長期アウトカムの指標、考えられる検証の方法（調査の方法、分析の方法）、実現可能性等が明確になるように、具体的に記入する必要がある。 上記に伴い、長期アウトカムの指標等に変更が生じた場合には、別紙「各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由」の対応箇所を変更する必要がある。	p.12-14「3.ロジック モデルの書き方」 p.26-40「第4章 施策の効果検証」	p.3「10.長期アウ トカム」 p.6「3. 効果検証 方法」	修正事例		

46	推奨	未点検	効果検証方法	「長期アウトカム」の効果検証方法により得られるエビデンスのレベルを向上させることが望ましい。	それぞれのエビデンスについてエビデンスレベルを確認し、レベル1～3に向上させることが望ましい。 ＜参考＞エビデンスレベル レベル1：ランダム化比較実験 レベル2a：差の差分、傾向スコアマッチング、操作変数法 レベル2b：重回帰分析、コホート分析 レベル3：比較検証、記述的な研究調査	p.3「1.EBPMとは何か？」 p.20-25「第3章 エビデンスとは」	p.3「10.長期アウトカム」 p.6「3. 効果検証方法」			# REF!
47	推奨	未点検	効果検証方法	「長期アウトカム」の効果検証方法を、対照群と比較して事業の効果を計測できるように設計することが望ましい。	「長期アウトカム」の効果検証の方法は、可能な範囲で事業の効果が及んでいない対照群の比較による方法を設計することが望ましい。	p.12-14「3.ロジックモデルの書き方」 p.15-16「4.リサーチデザインとは？」 p.26-30「1.基本的な考え方」	p.3「10.長期アウトカム」 p.6「3. 効果検証方法」	修正事例		# REF!
48	推奨	未点検	効果検証方法	「長期アウトカム」の効果検証方法を、外部要因を考慮した設計とすることが望ましい。	「長期アウトカム」の効果検証の方法は、極力外部要因を排除して事業の効果を計測する方法とすることが望ましい。	p.21-24「2.「因果関係」を知る（特に「（2）第三の要因（交絡因子）による可能性（3）偶然である可能性）」	p.3「10.長期アウトカム」 p.6「3. 効果検証方法」	修正事例		# REF!